

1 磐田市防潮堤整備事業について

(1) 防潮堤整備事業について

防潮堤整備事業で、現時点において28年度までに計画された整備事業計画の進捗状況を伺います。

磐田市の海岸線（11km）における防潮堤全体の整備のうち、どのくらい完成したのか伺います。また、今年度末の完成予定を伺います。

今後予定される整備事業計画を年度ごとに伺います。

28年11月定例会で議員の質問に、市長は「国がレベル2の対策事業に対して、やらないと決めて今現在あるわけです。そうすると、事業費の捻出が非常に大変だ。」と述べられています。市は防潮堤を30億円でできるとしていますが、この「事業費の捻出が大変だ」の意味する内容を伺います。

28年11月定例会で議員の質問に、市長は「11キロメートルある防潮堤の中に防災林もありまして、市が直接できない、タッチできない部分が幾つもあるわけです。」と述べられています。防災林があると直接できない理由を伺います。また、タッチできない部分が幾つもあるそうですが、このタッチできない幾つかの部分とは何か伺います。今後、このタッチできない部分の解消についてはどのように対応するのか伺います。

28年11月定例会で議員の質問に、市長は「土の確保は民間から出た土をおおむね確保できております。」と述べられています。また、防潮堤は30億円でできるとされています。市の財政状況を見ても、現時点で前倒しして整備するに可能な状況にあると考えますが、なぜできないのでしょうか。その理由を伺います。また、平成46年度完成とされた理由を伺います。

28年11月定例会で議員の質問に、市長は「関係する市町が疲弊しないように県が知恵を絞ってどういう支え方をして、どういう形で一日も早く整備が完了するかということは、これからみんなで知恵を合わせていく大きな課題だと思っております。」とも述べられ、「陳情に行った」とも述べられています。この陳情の結果、どのような方向性が示されたのか伺います。

(2) 津波対策事業基金について

平成28年12月31日において、寄附・募金合計で266,067千円、市積立・ふるさと納税等で838,477千円の合計1,104,544千円が基金の状況として市のHPに記載されています。今後の基金の用途、及びその利用予定金額と利用予定年度を伺います。

(3) 防潮堤整備による市南部地域への支援について

3.11東日本大震災以降、市の南部地域の地価は下がり、それにより市民の財産を目減りさせています。東日本大震災以降住民も減少しています。防潮堤の整備は市民の安心・安全な生活を担保する上においてなくてはならないものと考えます。南部地域の地価対策及び安心・安全な生活を担保するための方策を市長はどのように考えられ、また、今後実行されていかれるのか伺います。